

# 滋慶大学院新聞

発行所 学校法人 大阪滋慶学園  
滋慶医療科学大学大学院  
大阪市淀川区宮原1-2-8  
TEL.06-6150-1336  
https://graduate.juhs.ac.jp/

第16号  
発行責任者 橋本 勝信  
発行日 2023年(令和5年)3月31日

## 医療安全管理者の適性



京都大学医学部附属病院  
医療安全管理部

松村 由美氏

私は、2011年に医療安全管理室長になり、12年が経過したところです。医師のバックグラウンドを持ち、職員数が多く、医師の異動が激しい大学病院で、医療安全管理者として実務を担っています。着任時は、リスクマネージャーの経験もなく、医療安全についての基本的知識も持ち合わせていませんでした。医療安全に関する40時間講習を受け、指導者の下で経験を積むのが望ましいのだと思いますが、当時は、そのような機会が少なく、指導・支援的な立場と学修者としてのスタートを同時に迎えました。

ところで、医療機関の中で、医療安全管理部門は少数によって運営されています。一人の看護師が担当する医療機関から大学病院のように医師、薬剤師の専従者も加わる運営方式がありますが、多くても数名です。数名の者が全ての医療システムに精通することは不可能であり、自らがやったこともみたこともない医療についても、安

全の立場から、その医療システムの適切性をみなければなりません。現場からの視点でみると、専門家でもない者から、口出しされた、と感じる人もいるかもしれません。異なる視点を持つ医療安全管理者が、現場を客観的に観察し、改善の意図をもってフィードバックすることが医療安全活動です。このシステムを現場が受け入れ、現場の歯車と医療安全管理の歯車がうまく噛み合っ、くるくるとスムーズに回るようになれば、よい組織を作る推進力になります。

では、それが実践できるために必要な「医療安全管理者の適性」とは何でしょうか。米国の医学部修了時に必要となる質改善と患者安全の能力(コンピテンシー)には、コミュニケーション、プロフェッショナルリズム、事例に基づく学習と改善、システム思考が含まれています。医学生にとって必要なこの4点は、もちろん、医療安全管理者にとっても必要なことです。この中のコミュニケーション一つを取り上げても奥が深く、コミュニケーションのスタイルは人によってさまざまであり、相性の問題もあります。現場から相談したいと思える医療安全管理者になるためには、相手のニーズに耳を傾ける力が必要な一方で、時には、安全のために強い態度で接することも求められます。状況に応じた柔軟な対応も必要かもしれません。医療安全管理者の適性とは何か。適性を獲得するためには、理論と実践の間を行ったり来たりしながら、謙虚に適性について考え続けることが大切なのだろうと思います。

## 2022年度修士学位論文公聴会

2023年2月11日(土)・12(日)の両日に本学視聴覚大教室にて2022年度修士学位論文公聴会が開催され、18名の院生がそれぞれの研究課題について発表しました。

公聴会は、発表20分・質疑応答10分の時間配分で進行し、2年間の研究成果について、それぞれがスライドを駆使し発表を行いました。今後は、研究のデータを提供いただいた医療機関等へも結果を報告していく予定です。

修士論文の作成にご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

### 修士学位論文テーマ一覧

- ◎バーコード認証システムを活用した点滴実施の確認行動に関する研究
- ◎有床助産所における救急搬送時の母児の安全に関する開業助産師の経験と認識
- ◎医療機関の医師・薬剤師・看護師の医薬品使用に関する認識についての調査研究
- ◎有料老人ホーム介護職員が関与した薬剤関連事故の分析
- ◎ナラティブをととした病棟師長のレジリエンスの変化—医療事故当事者への支援に焦点を当てて—
- ◎看護師にとって働きがいのある高信頼性組織に関する質的研究
- ◎医薬品等製造における品質保証の安全管理についての調査研究
- ◎地域介護職が求める退院調整看護師の役割についての意識調査
- ◎手術室看護師による器械出し看護の行動分析—専門的知識に裏付けられた行動の探索—
- ◎看護師養成所の教員の就業継続意向と組織コミットメントおよび組織市民行動との関連
- ◎介護従事者におけるおむつ交換技術習得に向けた教育プログラムの有効性検証
- ◎地域中核病院におけるアドバンス・ケア・プランニングの実態と普及に向けた課題
- ◎介護付き有料老人ホームの原価計算による業績管理
- ◎慢性透析患者の血管石灰化とpH・重炭酸イオン濃度の関連性に関する研究
- ◎医療場面における自身の意図の言語表出が困難な発達障害のある人の支援ニーズに関する実態調査
- ◎急性期病院における転倒・転落リスクアセスメントの評価基準に関する看護師の認識
- ◎臨床工学技士を含むチーム形成に必要な志向性の共有についての研究
- ◎電子カルテの指示読み取りにおける臨床判断時のエラーの検討  
—テキストマイニング法による看護師の思考分析—



## 医療安全実践教育研究会 第10回学術集会報告

2022年10月16日(日)、医療安全実践教育研究会第10回学術集会が、「医療安全を支えるヒトを知る—医療安全の実践・教育へ活かすために—」をメインテーマに、オンラインにて開催されました。

まず大会長(本学、石松教授)から「医療安全を支えるヒトを知る—医療安全の実践・教育へ活かすために—」をテーマに講演されました。

続く特別講演は、京都大学大学院 情報学研究科 教授の熊田孝恒先生より、「人工知能と人間の認知特性—人間は人工知能とどのように協働できるのか—」と題して、医療を含め、様々な場面で人間の生活を変える可能性のあるAIとの付き合い方について、考える機会となりました。

一般演題では、「人工呼吸器に関連したインシデントとリスク認識後の確認行動について」「看護学生の援助場面における変化への気づきに変化対象の重要度が及ぼす影響—変化検出課題は自己の注意傾向の自発的な気づきを促す—」の2題の発表が行われました。

基調講演では、大阪大学名誉教授の臼井伸之介先生より、「事故・エラー生起に係る人間の心理・行動特性とは?—人間は変わる、人間は変わらない—」と題して、人間は教育・訓練などで変容する存在であるものの、変えることは難しい頑健な特性を持つことを十分理解した上で、事故の防止には、ハード、ソフト、マネジメントなど多方面から対策を講じることが重要であることを再確認する機会となりました。

シンポジウムは、「レジリエンスエンジニアリング再考」と題して、工学、心理学、医学の専門家から、レジリエンスの捉え方や位置づけ、現場に実装するための工夫や取り組みが紹介され、各シンポジストと座長、参加者の間で活発な議論が行われました。

閉会の挨拶として、和佐勝史代表世話人から、2023年10月15日(日)に第11回学術集会が開催されること、次期大会長として滋慶医療科学大学大学院 研究科長・教授の和佐勝史先生が担当されることが紹介されました。今回は専門分野を生かし、臨床現場に沿ったテーマを考えているとお話があり、本学術集会は盛会のうちに終了しました。

## 医薬品等製造実践教育研究会GMP初級講座・実践講座2022

本学では、医薬品等製造に関する実践的な教育とその研究を目的に、医薬品等製造実践教育研究会を立ち上げ、今年も5月~7月には医薬品製造・品質管理を中心に、ヒューマンエラーや最新の話も取り上げ、GMPの最新知識を基礎から学ぶ『GMP初級講座2022』を開講しました。この講座は、企業の新入者教育、製造・品質管理者の知識整理、医療機関製剤部署や製薬企業に就職を希望する学生の基礎教育支援を目的とし、網羅的、実践的なGMPの基礎知識を丁寧に解説するスタイルです。毎回小テストを実施して理解を図り、質問には各講師より丁寧な回答を行って参加者全員に共有し好評を得ています。全講座を受講し試験成績が基準に達した方には修了証が交付されます。

また、初級講座に引き続き、アドバンスにあたる『GMP実践講座2022』として、最新のGMP製造現場の実践について学べるセミナーを開催しました。医薬品等の製造・品質管理の向上など、キャリア向上を目指す為の講座を行いました。

来年度以降も継続的に充実した初級講座を開講予定であり、今後は医療・学術と製造現場の新たな連携構築も視野に入れさらに活動を行う予定です。来年度GMP初級講座は本学HPから申込受けの予定です。

新人教育は  
大学院で!

GMP 初級講座 2023 全3回

・製造企業新入者、製造・品質管理者、製造担当者、製薬企業就職希望学生の初期教育、基礎教育に必須かつ履修し、リスキルや統括の方の再確認にも!

・5月~7月第3金曜 10時~17時半、オンラインライブ開講します

・受講日程の調整が必要な場合は講師視察も対応しますのでご相談ください

・熟練講師陣が基礎概念から最新動向まで詳しく幅広く解説! 質問歓迎!

・小試験による習得の確認

・修了証交付(後日郵送。小試験 60%未満、部分受講は受講証になります)

<講習費用など>

・全3回企業関係 30,000円、医療・教育関係 10,000円、学生 3,000円

・1施設2名以上お申込みで20%OFF! ・抄録は事前にPDFでお送りします

・各月でも受講できます (各月: 企業関係 11,000円、医療・教育関係 4,000円、学生 1,000円)

<2023年度 初級講座 開講日時とカリキュラム>

形式: オンラインによるライブ配信

第1回 5月19日 金曜日 10:00-17:30		第2回 6月16日 日曜日 (つづき)	
1 医療現場の医薬品安全管理	4 構造設備(設備の整備・保守点検)	1 衛生管理	4 自己点検
2 医薬品等の基礎知識	5 適格性評価・バリデーション	2 製造管理	5 教育訓練
3 GMPの基本原則	6 逸脱・変更管理	3 医薬品における委託製造	6 GMP適合性調査(査察)
4 GMP・GQP命令と法規制	第3回 7月21日 金曜日 10:00-17:30		
5 GMP組織と責任体制	1 出荷管理		
6 GMP文書(手順書、医薬品製品標準書)	2 品質管理と品質保証		
第2回 6月16日 日曜日 10:00-17:30	3 品質情報(苦情)・回収管理		

お問い合わせ先: 滋慶医療科学大学大学院事務局 電話: 06-6150-1336 FAX: 06-6150-1337  
大学院ホームページをご覧ください (https://graduate.juhs.ac.jp/) お申込み

滋慶医療科学大学大学院 医薬品等製造実践教育研究会

## 在学生からのメッセージ

加納総合病院 医療安全管理室  
専従医療安全管理者

大西 依子さん(12期生)

専従の医療安全管理者として、医療安全管理室に異動したことを機にこの大学院への入学を決意しました。

医療安全管理室への異動が60歳で、大学院の入学は61歳でした。年齢的に大学院に入学することに不安を感じることもありましたが、しかし医療安全管理者として業務を行っていると、より専門的な知識を求められることがあり、体系的に医療安全について学ぶ必要性を強く感じました。

私はクラスでは最年長の学生ですが、入学してみると不安感を抱く必要など全くなかったと思える程に、楽しい学生生活を送ること

ができています。あらゆる分野の専門性の高い先生方、様々な年代・職種のクラスメートから刺激を受けて多くの学びを得ています。

改めて、60代になって大学院で学ぶ意義について考えると「自分自身の環境の変化の中で、新たに必要な知識やスキルを学び直し、そうした学び直しを元に自分自身を立て直すこと」ではないかと感じています。大学院で学ぶことに年齢は関係ない、と実感しています。



浜松医科大学医学部附属病院  
医療機器管理部

主任 川村 茂之さん(12期生)

私は臨床工学技士として、心臓手術での人工心肺操作、ICU・NICUの集中治療、心臓カテーテル、透析などの業務をローテーションで行ってきました。最近ではME機器管理業務を主に行っています。ME機器管理業務に携わると機器に関するインシデントやアクシデントに助言を求められる機会や他職種で話し合いする事が多くなりました。臨床工学技士の立場として機器の基本性能や精度、故障確認などは行いますが、インシデントやアクシデントが起きた背景や要因(勤務、環境、人的など)を考慮せず答えを出していることもあり、ときに自分の答えに確信が持てない事を感じることもありました。そこで医療安全について基礎から学べ、心理学・人間工学・財務管理など新しい視点も併せて学べる事に魅力を感じこの大学院を選びました。

大学院進学にあたり、臨床業務や子育てを

しながらの大学院生活になるため職場や家庭の理解を得ることが重要でした。幸い職場の上司や妻は理解をしてくれ、職場では休日や当直、待機の調整、家庭内でも講義や研究の時間を確保するため妻や子供が協力してくれています。

今は入学し8か月経過しました。研究では、担当教員をはじめその他の先生方の指導を受け医療機器の管理に関する研究をどのように進めていくか模索しています。同期には多くの職種がおり刺激やアドバイスをもらいながら、忙しい中にも充実した大学院生活を送っています。大学院修了後は学んだ事を生かし病院や自部署に貢献していきたいと考えています。



## 松島 新さん(11期生)が公益財団法人大阪腎臓バンクから研究助成を受けることになりました。

滋慶医療科学大学院の大学院生・松島 新さん(11期生:公益財団法人甲南会六甲アイランド甲南病院・臨床工学技士)を中心とする研究チームは公益財団法人大阪腎臓バンクから2022年度腎疾患研究助成を受け

ることになりました。研究テーマは「慢性透析患者の血管石灰化とpH・重炭酸イオン濃度の関連性に関する研究」で、本学教員の廣瀬稔教授、和佐勝史教授の指導のもと遂行されている共同研究になります。

## 修了生の活躍

### 本学修了生 住友順子さん(6期生)が医療の質・安全学会第8回上原鳴夫記念研究奨励賞若手奨励賞を受賞

本学修了生 住友順子さん(6期生)が、医療の質・安全学会第8回上原鳴夫記念研究奨励賞若手奨励賞を受賞しました。住友氏の研究テーマは、『TeamSTEPS®の「チェックバック」遵守率向上を目指した介入の効果—看護師間における行動分析学的教育プログラムの有効性の検証—』であり、同大学院の飛田伊都子特任教授の指導によるものです。住友氏は、シンプルな行動であるにも関わらず臨床現場で遵守されていないチェックバック(復唱)に注目し、行動分析学という心理学を用いて行動変容を導くプログラムを開発し、その有効性を検証しました。住友氏は、本研究で滋慶医療科学大学院大学(現 滋慶医療科学大学院)の修士号を取得し、2021年には医療の質・安全学会誌に原著論文として掲載されました。住友氏は「この度、医療の質・安全に多大なる貢献をされました上原鳴夫先生を記念した、このような素晴らしい賞を受



賞することができ大変光栄に思っております。看護管理者として、看護師の性格特性に着目するのではなく、行動に着目し変容を目指すことができる行動分析学との出会いは人生の宝物であり、現場の疑問を、研究を通して解決する方法を見出す経験は、自身にとって人生の転機となりました。今後も、この賞に恥じぬよう、臨床現場で生じる様々な問題事象を解決する機能を分析し、医療の質・安全を担保する役割を担って参りたいと思います。」と述べています。

### 本学修了生 堀江直人さん(8期生)の修士論文が学術誌「医療の質・安全学会会誌」に原著論文として掲載されました。

本学修了生である堀江直人さん(8期生:研究生)の修士論文の一部である「働きやすく働きがいのある充実した医療組織の経営責任者の意識段階について」(本学の狩俣正雄特任教授、宇田淳教授との共著)が学術誌「医療の質・安全学会会誌」第17巻第4号に掲載されました。本学での修士学位論文「病院組織における働きやすさ・働きがいに

対する経営責任者の意識に関する研究」を基に、再度整理しまとめたものです。働きやすく働きがいのある医療組織では経営責任者の意識はおおむね高い段階であり、看護師離職率や経営指標は平均を上回っており、リテンション・マネジメントや経営指標に良い影響を及ぼしており、医療組織の持続的発展の可能性について論じています。

## オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、オンライン並びに対面等にて本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内のほか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や仕事との両立の仕方など、また、研究テーマについて個別に相談ができます。入学を検討されている方は是非オープンキャンパスにご参加ください。

### オープンキャンパスの流れ

- 1 全体説明
- 2 模擬授業
- 3 修了生メッセージ
- 4 個別相談

本学の特徴や医療安全管理学分野を学ぶ意義などを説明します。

実際の講義を通して、実践的な講義を体感してください。

入学動機や修士論文作成までの流れなどについて修了生が説明します。

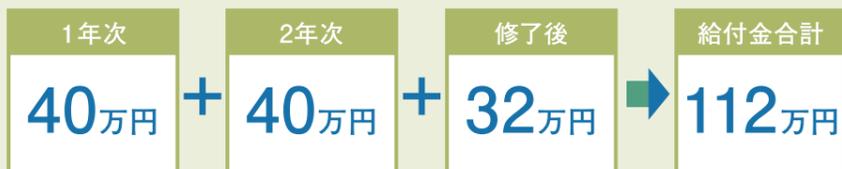
仕事と学びの両立方法やカリキュラム、学修支援など、個別にご相談に応じます。

個別相談会・授業見学も随時行っております。  
お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話をお願いします。

## 学費の負担が軽減! 厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の 指定講座となりました

専門実践教育訓練給付金制度は、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした雇用保険の給付制度で、2018年4月以降の本学入学者のうち所定の要件を満たす場合に給付金が支給されます。本学の入学前に手続きが必要ですので、住居所のハローワークにご相談ください。

### 【給付額】



順調に単位を取得し2年間で修了した場合に限ります。

### 【支給対象者の要件】

雇用保険の被保険者として、支給要件期間が3年以上ある方、現在は雇用保険の被保険者ではないが、離職後1年以内でかつその前に支給要件期間が3年以上ある方。初めて教育訓練給付の支給を受ける場合は、支給要件期間は2年以上あればよい。過去に教育訓練給付金を受給した方などは要件を満たさない場合があります。

## 編集後記

今年の干支は「癸卯(みずのとう)」。十干の癸(はかる)は種子が計るほど大きくなり春の間近でつぼみが花開く直前であるという意味だそうで、十二支の卯には「春の訪れを感じる」という意味があるのだそうだ。長く苦しかったCOVID-19から抜け出し、大きく飛躍する一年となり、更なる飛躍に向けた、挑戦の年になること祈念いたします。

### 大学院事務局から

事務局への連絡はメールアドレス jimuj@juhs.ac.jp または  
電話06-6150-1336へお願いいたします。  
(火曜～金曜10時～21時、土曜10時～19時、日祝・月曜休)